



～教育・保育実習および臨床実習～

植草学園大学・短期大学では免許・資格取得のため、学外のさまざまな施設で実習を行います。

実習は、大学で得た知識・技術等を実践するとともに、実際の体験を通して、小学校、特別支援学校、幼稚園、保育園、施設、病院等における職業人として必要とされる人間性を養い、自分を磨く機会です。

6月には多くの学生が全国各地の実習先で頑張っています。そして、実習期間中には、先生方が巡回指導で実習施設を訪問し、学生を支援しています。

6月に行われている実習

学部・専攻	学年	実習名	期間
発達教育学部	3年	小学校教育実習	4週間
	3年	幼稚園教育実習	1週間
	2年	介護等体験実習	1週間
保健医療学部	4年	総合臨床実習	8週間
児童障害福祉専攻	2年	幼稚園教育実習	3週間



～巡回指導～



小学校の教育実習は、3年次に4週間かけて、主に出身校である母校で行っています。また、副専攻の人は4年次に2週間行っています。実習は大学生活で最も重要な学習活動の一つです。自分の進路の確認の場にも成ります。

さて、実習は、普通の大学での生活とは異なる環境で行われるものであり、どのように学び活動しているか心配になります。教員の巡回指導では、実習学校を訪問して、まず、校長先生や担当の先生に会い、実習での学生の態度、学びの様子等を学校側から聞いたり、大学の意向を伝えたりします。その後、実際の学生の実習の様子を参観したり、精錬授業と言って実習の集大成とも言ふべき授業を参観し、終わって授業に対して指導助言を行ったりします。どの実習生も、子どもを知るために努力し、担当教師から熱心に授業の進め方や生徒指導の仕方などお教えいただいています。健康に留意しながら誠実に勤務していることを願って教員は巡回指導を行っています。

実習生が、定められた期間を過ぎて大学に戻り、無事終了したことの挨拶(報告)をしてくれることを心待ちにしています。

大学 発達教育学部 発達支援教育学科
小学校教育専攻 教授 小林 敢治郎



～新入生からのメッセージ～



私は、少子高齢化が進む日本に必要なのは、地域の繋がりと考えます。植草学園短期大学では数多くの実習やボランティア活動を通して、地域に根ざした介護を学ぶことができ、多くの資格を取得できるので入学を決めました。

利用者さん一人ひとりの可能性を少しでも広げられ、笑顔の絶えない介護福祉士になれるよう頑張ります。

短大 福祉学科 地域介護福祉専攻
1年 浅野 友里
千葉県立検見川高等学校出身

植草学園短期大学は障害児保育の勉強に力を入れ、特別支援学校での勤務経験がある先生方の授業が多く、また、特別支援学校での実習もできるというところに魅力を感じました。

短大は授業が多く忙しく、一人暮らしも大変ですが、2年間という限られた時間で将来をより現実的に考えられるということが短大の最大のメリットだと思います。何事にも妥協せず、頑張ります。

短大 福祉学科 児童障害福祉専攻
1年 中村 可奈子
青森県立田名部高等学校出身



～複数の資格・免許取得をめざして頑張ります～



私は幼稚園教諭をめざしていますが、今は幼保一元化により、保育士資格ももっていないと就職が厳しくなるかもしれません。それに、認定こども園に就職するには、保育士資格は必須となりますので、幼稚園教諭一種免許に加え、保育士資格も取得しようとしています。

さらに、副専攻で小学校教諭一種免許の取得もめざしています。小学校教諭免許も取得することにより、幼稚園、保育所だけでなく、講師として小学校へ、また塾講師などで就職できる可能性があるため、自分の進路が格段に広がります。

この先、さまざまな場所で行う実習やボランティアを通して、自分のやりたいことが変わってくるかもしれません。その時のために未来の自分の可能性を増やすという意味で、勉強は大変ですがたくさん免許・資格を取得しようと思います。自分の真になりたいものになるため、今後も努力していきます。

大学 発達教育学部 発達支援教育学科 2年 野口 裕希
千葉県立佐原白楊高等学校出身